

蝶とトンボ

金戸には本所の田んぼ・竹林・社叢や川原島の山田川沿い、中知山・京塚の丘陵地があり自然が沢山残されている。聚落であり、季節毎に幾種類もの蝶やトンボを目にすることが出来る。

蝶にはモンシロ

チョウ・スジシロ

チョウ・キチョウ

・ヤマトシジミ・

ヒメジャノメ・ア

ゲハ・キアゲハ・

コムラサキなどが

飛んでいる。最近

は法律で定まってい

るわけでもない

が国蝶といわれる

オオムラサキも目

にすることがある。

童謡に歌われる

白い蝶はモンシロ

チョウと思われて

いるが、スジシロ

チョウであること

が多くなっている。

このスジシロチョウは日本の古来の蝶であり、モンシロ



チョウはナタネや大根が中国よりもたらされた時に一緒に渡ってきた蝶である。ナタネや大根の栽培が進むにつれて、古来からのスジシロチョウを山地に追いやったのである。

畑が減ったためにモンシロチョウ・アゲハは生息しにくくなり、逆に山間の土に混じって宅地造成や道路沿いにタネツケバナやイヌガラシが生えるようになりスジシロチョウの生育環境が広がりとつあると云われている。

トンボ類は溜池や用水池がない金戸には種類が少ないようである。富山県には四〇〇〇種のトンボが生息すると云われるが、金戸ではイトトンボ・アオヤンマ・シヨウジョウトンボ・ハツチョウトンボ・シオカラトンボ・オニヤンマなどがとんでいるようだ。

赤トンボは秋に群れをなして飛ぶがトンボ科アカネ属するトンボを総称して呼ぶ。秋に平地に群を成して出現するアキアカネのみを指すことがある。またトンボ科アカネ属以外の体色の赤いトンボ（ハツチョウトンボ、シヨウジョウトンボ、ベニイトトンボ等）を含む場合もある。色は赤でな



く黄色であるにもかかわらず、夏の終わりごろから群を成して出現するウスバキトンボが赤とんぼと呼ばれることも多い。アキアカネの特徴の一つとして止まり方が他のトンボが翅を水平のまま、若しくは垂直に閉じるの対して、アキアカネは翅を体の下に徐々に下げ、休むことが挙げられる。

昆虫類 カメムシ科

毎年収穫期にカメムシ対策に村中神経を使っているが、「斑点米」を発生させる富山県で一番被害をもたらすカメムシはアカヒゲホソミドリカスミカメとトゲシラホシカメムシである。防除においては農薬への依存度もあるが、一斉の畔草刈りを村中で行うことに力が注がれている。

また冬に家屋で越冬する「屁くさんぼ」はクサギカメムシである。体色は全身が暗褐色で、普段見かけるとカメムシの中では大きい方である。日本のほぼ全土に分布し、山野にも耕作地に出現する。五ヶ山ではヘクサンボの多い年は雪が多くなると云われている。



トゲシラホシカメムシ

クワガタ・コガネムシ科

昭和五〇年代の基盤整備までは金戸館跡に長堤や丸堤があり、クワガタやカブトムシが生息する木々が多くあつた。またカンジャの木には蜂蜜を塗つて捕つたものである。現在は専徳寺境内に数本ある榿木にいたるだけとなつた。昼間にストッキングにバナナや蜂蜜に浸した果物

を入れてぶら下げおくと面白いほど捕れる。

また竹林の中にはバツタ・コオロギ・キリギリス・ハンミョウ・テントウムシなどの昆虫がいる。



哺乳類

竹林・雑木林の中には、オコジョ・ムササビ・コウモリが生息している。オコジョはテ



オコジョ (尾が黒い)

も細い、食べる物もオコジョは完全に肉食、テンは雑食なのでフンに種が入つてればテンとなる。オコジョ・イタチは砺波地方ではトバという呼び方をするが、識別は難しく尾先が黒ければオコジョである。



冬も尾が黒い

タヌキは縁の下に巣が有つたことがある。ムササビは生息していないが、よく見かけ本堂の屋根裏にいたことがある。ハクビシンは昔はいなかったが、明治時代に毛皮用として中国などから持ち込まれ野生化した説が有力である。金戸でも本所のせんだいや京塚の畑に野菜の被害が出ている

淡水魚類・両生類・爬虫類

近年、用水にメダカ・ドジョウ・サワガニを見かけるようになった。サワガニは日中は石の下などにひそみ、夜になると動きだす



サワガニ

が雨の日などは日中でも行動する。活動期は春から秋までで、冬は川の近くの岩陰などで冬眠する。金戸でも江湊えで砂にいるのをよく見かける。

またカエルも田植え時期にはうるさいほど夜に泣いている。カエルが鳴きだすのは気温と湿度が関係しておりジメジメした日はよく鳴く。しかし人が近くを通り過ぎたり、鳥



が水に入ったりと一斉に泣き止む。危険が無くなったのを察知して再び泣き出す。

蛇はシマヘビ・アオダイショウ・ヤマカガシなどがある。ヤモリやトカゲなどもおり家の中でも見かける。

